

## 立山の雷鳥（ライチョウ）

神様の住む場所に住むという鳥がいます。名前を雷鳥（ライチョウ）といいます。国の特別天然記念物に指定されています。雷鳥は現在、北アルプスの立山という山を中心に約3千羽います。高い山々の上にだけ住んでいます。およそ3万年前の世界中がすごく寒かった時代の氷河期という時期に日本にやってきたといわれています。コケモモ、ハクサンイチゲという名前の高山植物、高い山々にしか咲かない植物をえさにしています。6年くらい生きて100mくらいとぶことができます。

校長先生が初めて雷鳥にあったのは大学生の時です。山登りが好きだった校長先生は、



北アルプスの立山から槍ヶ岳という山を目指して歩いていた時のことでした。最初霧の中で「グウエ、グウエ」という鳴き声を聞きました。山の上にカエルがいるのかと思いました。しばらくすると、雪渓（高い山は、夏でも雪が残っているところがあります。そういうところを雪渓といいいます。）に雷鳥の親子が出てきました。その可愛い姿と声があまりにも合わないの、そのときのことをとてもよく覚えています。雷鳥は冬になると真っ白になります。夏になると茶色に変わります。ハイ松という背の低い松の木が高い山々には生えているのですが、その下で普段暮らしています。とても可愛い鳥です。

さて、雷鳥の研究をしている人がいて、10年間雷鳥の観察をしてきました。その結果、10年前には立山に1500羽いた雷鳥が、今では3分の1の550羽に減ってしまったというのです。このままでは雷鳥が絶滅、つまり全ていなくなってしまうというのです。最初は観光客や山を登る登山者たちが山を汚したことが原因ではないかと考えられていました。しかし研究を続けていて、本当の原因がわかりました。この10年間で立山の気温が0.6度上昇したためだということです。10年間でわずか0.6度の気温の上昇が絶滅の原因だということです。

実は、気温が0.6度上がったため、背の低いハイ松の成長が早くなって、背が高くなってきたのです。そのため、雷鳥の大切なえさである高山植物が、日陰になって育たなくなってしまうのです。また気温が0.6度上がったために、蚊やブヨが立山まで上がってきて、雷鳥の血を吸うようになったことも原因であるともいわれています。

雷鳥が絶滅の危機にある原因が「地球温暖化」にあるということです。皆さんは「地球温暖化」という言葉をテレビなどでも聞いたことがあるでしょう。「地球温暖化」の原因は私たち人間にあるといわれています。

今月はCO2削減月間です。四年生とと五年生を中心に取り組んでいます。校長先生も今ネクタイをしていませんね。クールビズといいます。これも地球温暖化を防ぐための取り組みの一つです。どうしたら地球温暖化を防ぐことができるかみなさんも考えてみてください。